

TOKYO COLLEGE

主催:東京大学国際高等研究所東京カレッジ

Shaping a Shared Future Together

共に考える。未来のかたち

東京カレッジ講演会 Tokyo College Event

伝統的な中国史学における「世界史」

講師:葛兆光 (東京カレッジ特任教授、復旦大学特別招聘教授)

2020年8月27日(木) 17:00 より東京カレッジYouTubeチャンネルにて視聴可能(予定)



葛兆光: 1984年北京大學大学院修士課程(古典文献学)修了、1992年に清華大學教授(歴史学)、2006年に復旦大學特別招聘教授。京都大學(1998年)、東京大學(2015年)、プリンストン大學(2011~2013年)、シカゴ大學(2015年)客任教授。東アジア、中国の思想史・文化史・宗教史を研究。

PLAY

視聴方法:東京カレッジYouTubeチャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCGI2NUAxXMyN8-Up3n4piaQ>

講演

葛兆光 (東京カレッジ特任教授、復旦大学特別招聘教授)

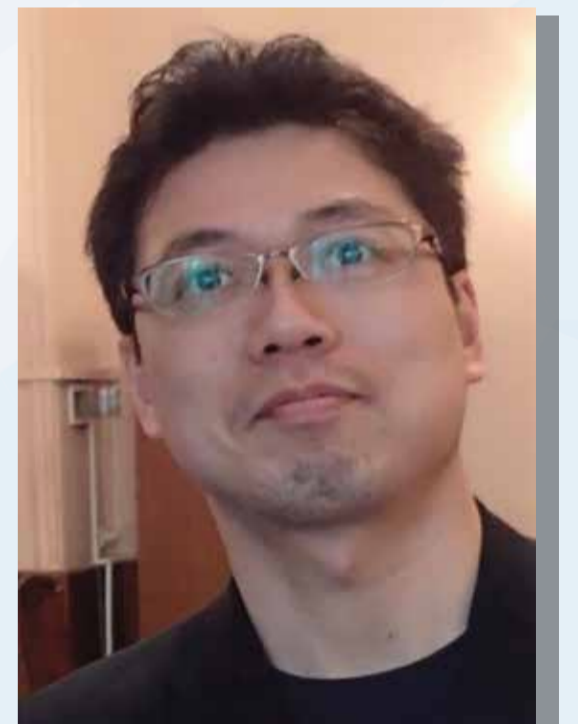
言語:中国語音声、日本語字幕

この講演では、中国の伝統的な史学において、世界がどのように認識され、世界史がどのように語られていたのかについて議論する。『史記』が紀元前2世紀に成立して以来、中国では「中央王朝を中心とし、周辺四裔を附庸とする」世界の見方および世界史の語り方が形成された。この後二千年余りの過程で、変化をもたらす三つの契機があったが、結局変化は実現されなかった。しかし、19世紀半ばの西潮東漸以後、この伝統的な史学は根底から揺らぎ始めた。新しい世界認識や世界史は歴史教科書に取り入れられ、やがて新しい常識となり、伝統的な史学におけるそれらに取って代わった。

対談

葛兆光 x 大塚修 (総合文化研究科准教授)

言語:中国語・日本語 (逐次通訳付)



大塚修: 東京大学大学院総合文化研究科准教授。2012年東京大学大学院博士課程単位取得退学。博士(文学)。専門は中東イスラーム地域史。伝統的な歴史叙述やその受容・継承の在り方を分析対象としながら、中東地域の歴史と文化を研究している。著書に『普遍史の変貌』(名古屋大学出版会、2017年)がある。

Tokyo College on social media



facebook



twitter



NEWSLETTER
東京カレッジニュースレター